

## 令和4年「越前市この一年」

**通年**新型コロナウイルス感染症 ～コロナ感染症に立ち向かうために～

- ・新型コロナウイルスワクチン接種は、感染と重症化予防のため接種を重ねてきました。
- ・秋には、新たにオミクロン株対応ワクチンの接種を開始したほか、生後6カ月～4歳の乳幼児の接種を開始し、ほぼ全年齢のワクチン接種が可能となるなど、順調に進めてきました。
- ・新型コロナウイルスの影響を乗り越えようとする前向きな事業所を支援する「頑張る商業者イベント賑わい創出支援事業補助金」を展開しました。
- ・コロナ禍における物価高騰の影響を受けている生活者や事業者に対し「えちぜんし割クーポン」や「えちぜんしマスク宴会割クーポン」の発行により家計負担を軽減し、地域消費を喚起しました。

**通年**山田市政、本格スタート ～副市長2人体制、総合計画2023着手～

- ・人口減少、高齢化、北陸新幹線の開業対策など、市政のかじ取りが重要な時期を迎えることから、新たに副市長を2人体制とし、市政を推進しています。
- ・市総合計画2023（案）は、2040年の越前市の将来像を示し、課題解決のための政策を積み上げた「課題解決型の総合計画」です。
- ・市議会や市民の皆さんからご意見をいただきながら策定を進めています。
- ・計画の理念を「幸せを実感できるふるさと～ウェルビーイングの越前市～」とし、住んでいる人が誇りを持ち、住み続けたい、帰ってきたいと思える、ふるさとづくりを進めます。

**3・8・9月**魅力ある武生中央公園

## ～温水プールオープン、コウノトリ広場・パピペポー広場に遊具完成～

- ・武生中央公園のさらなる魅力向上を図ることを目的に、老朽化した屋外水泳場を屋内の温水プールにリニューアル。
- ・公募設置管理制度（Park-PFI）を県内で初めて活用し、民間事業者が設置、運営する屋内遊戯場、スポーツジム、コンテナショップ、賑わい広場を一体的に整備し、PERKY HOUSE（パーキーハウス）として、令和4年3月6日に共用開始しました。
- ・武生中央公園のシンボルとして多くの市民を楽しませた大観覧車が、コウノトリ広場の新たなシンボル遊具「コウノトリの大冒険」として令和4年8月に生まれ変わりました。
- ・老朽化していたバイキングも「かいぞくせん・がぼがぼまる」としてリニューアルしたほか、パピペポー広場のモノレールやメリーゴーランドもリニューアルし、絵本作家・かこさとし先生の世界観を楽しむことができます。

**5月**紫式部を軸とした魅力発信 ～越前市で暮らした紫式部が大河ドラマの主人公に～

- ・令和6年放送の大河ドラマが紫式部を主人公とした「光る君へ」に決定しました。
- ・紫式部は、国司に任命された父に同行し、生涯でただ一度都を離れ、越前市で1年余りを過ごしました。

- ・雄大な自然とその恵み、越前和紙の卓越した技術に触れるなど、多感な青春時代における越前での暮らしが、才能をもった紫式部の感性をさらに豊かにさせ、のちに源氏物語を大成させる原動力となったと考えています。
- ・紫式部顕彰会や源氏物語アカデミーなどの市民活動が長年にわたり行われ、愛され続ける紫式部の生涯が描かれることは本市にとって大きな喜びであり、本市を知っていただく好機になります。
- ・紫式部を軸とした地域の魅力発信や文化振興、観光誘客に官民一体で取り組んでいきます。

## 7月市民代表、新たな4年 ～市議会議員一般選挙を執行～

- ・越前市議会議員選挙が令和4年7月10日に執行され、新人3人を含む22人が当選しました。
- ・8月臨時会が開かれ、吉田啓三議長、橋本弥登志副議長の選出と各委員会の所属や各組合議員の選出が行われました。

## 7・8月避難指示発令 ～記録的な大雨と災害支援～

- ・令和4年7月9日の午後、粟田部地区で1時間に109ミリもの猛烈な雨を観測しました。
- ・8月4日から5日にかけて県内を襲った大雨の際は、気象予想などから速やかに災害対策本部を設置しました。
- ・日野川、大塩谷川で一時、氾濫危険水位を超えたことから、流域11町内1,700世帯に避難指示を発令、広域避難場所へ93人が避難しました。
- ・両大雨で、床下浸水、道路冠水、土砂流出等、多数の被害が生じました。
- ・8月の大雨で甚大な被害に遭われた南越前町には、8月5日に市の給水車を貸出したことをはじめ、以降、災害ボランティアセンター運営、高齢者宅訪問、災害査定を支援するため職員を派遣したほか、多くの市民に派遣ボランティアとして復旧活動にご尽力いただきました。

## 7～9月「世界への架け橋として 若泉敬」 ～武生公会堂記念館企画展・沖縄返還50周年記念～

- ・武生公会堂記念館において令和4年7月15日から9月4日まで、沖縄返還50周年を記念し、横住町出身の国際政治学者 若泉敬氏の功績を紹介する企画展「世界への架け橋として 若泉敬」を開催しました。
- ・戦後27年間アメリカ統治下にあった沖縄を取り戻すため、当時、国際政治学者として活躍し、国内外に人脉を持つ若泉氏が、総理大臣佐藤栄作から命を受けました。
- ・アメリカ大統領や大統領補佐官らと粘り強く交渉を重ねたことにより「戦争で失われた国土を、交渉で取り戻す」という偉業を成し遂げました。
- ・展示会では、交渉の記録や生涯を通じ国際関係の中の日本を考え続けてきた若泉氏に纏わる資料を紹介しました。

## 8・11月3年ぶり帰ってきた、市のイベント

～サマーフェスティバル、千年未来工芸祭、菊花マラソン～

### 【サマーフェスティバル】

- ・武生中央公園では「ふるさと踊り」が、日野川河川緑地公園では「花火大会」を開催しました。
- ・花火大会では約13,000発が打ち上げられ、大勢の観客が夜空を彩る花火を楽しみました。

### 【千年未来工芸祭】

- ・越前市が誇る和紙や打刃物、箆筒をはじめとする工芸の魅力を身近に体感できるクラフトマーケット「千年未来工芸祭」をリアル開催しました。
- ・夜市をイメージした幻想的な空間で、来場者は、会場全体で約120ブースの出展者との交流を楽しみながら、モノづくりの魅力を堪能しました。

### 【菊花マラソン】

- ・「菊花マラソン」を開催し、県内外から参加した1,688人がハーフ・10キロ・5キロ・3キロ・2キロの各コースを走り抜けました。
- ・絶好の秋晴れの下、菊の香りを受けながら、市街地やのどかな田園風景のコースを楽しみました。

### 9月 越前たけふ駅物語 始動 ～駅舎の建築工事完了、道の駅オープン（令和5年3月18日）～

- ・北陸新幹線 越前たけふ駅は、デザインコンセプト「伝統・文化を未来につなぐシンボルとしての駅」をもとに、令和2年11月から鉄道・運輸機構による駅舎の建築工事が進められ、令和4年9月下旬に完了しました。
- ・現在は、令和6年春予定の完成・開業に向けて、引き続き設備（電気・機械）工事が進められています。
- ・新幹線駅に併設される道の駅「越前たけふ」は、建築工事が完了し、令和5年3月18日（土）のオープンに向け外構工事等の準備を進めています。
- ・高速道路や国道等の交通の結節点としてドライバーへ憩いの場を提供するとともに、広域の観光情報の発信や食のイベント、伝統的工芸品等の販売により、地域の魅力を発信していきます。

### 10月 自分らしく暮らせるまちへ ～パートナーシップ宣誓制度導入～

- ・市民一人ひとりの人権や個性を尊重し、性の多様性への理解を進め、誰もが人生のパートナーや大切な人と安心して暮らすことができる社会を目指し、県内初となる「パートナーシップ宣誓制度」を令和4年10月1日に導入しました。
- ・導入を記念して、性の多様性に対する理解と尊重を表す虹色で市役所庁舎内の階段を「にじいろ階段」に彩るほか、多様な性に関する啓発掲示、庁舎前ひろば石垣のレインボーライトアップを行いました。
- ・令和4年12月11日には、「誰もが自分らしく暮らせるまちへ」と題した講演会を開催し、多くの市民の方に参加いただきました。
- ・多様な性をはじめ、さまざまな人権に対する理解が更に広がるよう、今後も取組みを進めていきます。